歌初め（四）

下田　明美

懐かしき言葉の響きオルリーの
　空港に有りて恋のリセット

巣篭もりのコウノトリ立ち羽ばたけば
　帰る雄鳥は添うて並びぬ

上下（うえした）の嘴（くちばし）合わせ音をたて
　つがいの鳥の交歓続く

オリーブの雄株の果肉は小さくて
　大粒の実は雌株の翡翠（ひすい）

ハルシオン止（や）めると決めたウイドウは
　羊数えぬ、眠くなるまで

ブラックの羊（ひつじ）の群れは断崖の
　根もとの日陰、寒さの中に

私（わたくし）の祖先はきっとアメーバー
　眠られぬ夜の言い訳にして

モロッコにたった一つのスキー場
　アトラス山脈、峠近くに

海底に珊瑚のバラあり砂漠には
　石のバラあり、似て非なるバラ

隕石がサハラ砂漠に落ちている
　鉄片寄せても引く石はなし

幾枚も雲の絨緞(じゅうたん)浮かんでる
　サハラ砂漠の果ての果てまで

四輪の駆動車走る縦横に
　砂嵐(すなあらし)舞うサハラの日没

「こわごわと」ヒトコブラクダに乗ってみる
　風紋の先に夕日が沈む

精悍なベルベル人のサブ・ガイド
　少し話せる仏語、日本語

お花見はアーモンドの花、ミントティー
　雪山(ゆきやま)望む小川のほとりで

海の幸フライで食する昼下がり
　白い町並みカサブランカよ

乾杯と「君の瞳」にグラス挙げ
　旅の終わりの夜は過ぎゆく

コウノトリの巣